

# 都中英研だより

東京都中学校英語教育研究会  
会長 平岡 栄一  
(葛飾区立常盤中学校)

## 都中英研の人材育成を対話と協働によりさらに進める

東京都中学校英語教育研究会会長 平岡 栄一

東京都中学校英語教育研究会（以下、都中英研）会長を令和5年度より拝命しております葛飾区立常盤中学校長 平岡栄一です。日頃より都中英研の活動につきまして、多くの皆様に御理解・御協力を賜り、深く感謝申し上げます。本会の歴代会長、各部長をはじめとする部員各位が蓄積した素晴らしい成果を基盤として、都中英研のさらなる充実・発展のために皆様とともに一層努力してまいります。どうぞよろしくお願い申し上げます。

さて、都中英研各部の研究会・研修会等は今年度も大変活発に開催されています。今夏にも合計5回の研修会が開催され、各部員が実践からの発表や提案を行い、また参加者との対話を行いました。率直な感想や意見が交わされた対話からの学びは大きく、2学期以降の授業改善が期待できます。また扱われたテーマもこれまでの成果を踏まえ、着実に発展しており、質の高い研修会が展開されました。研修会は秋季、冬季にも実施されます。

都中英研は東京都教育委員会研究推進団体の認定を受けた研究会で、会の目的は「中学校英語教育に関する事項を研究し、会員の識見の向上に努めると共に英語教育の振興を図ること」としています。この目的を達成するために、本会では次の5つの事業を行っています。

- 1 各種研修会の開催（研修会、発表会、講演会等）
- 2 調査活動（コミュニケーションテストの作成とその分析、調査活動等）
- 3 研究活動（英語教育に関わる基礎的・発展的、実践的な課題解決）
- 4 各種英語教育団体等との連携・協力
- 5 機関誌発行、本会の目的達成に必要な事業

また、今年度の重点目標は次の4つです。

- ① 全学年で実施するスピーキングテスト（ESAT-J）を始めとする都の事業において、東京都教育委員会と連携すること、また東京方式少人数・習熟度別指導を充実させ、授業改善を実現することで生徒および教員の英語力を高めること。
- ② 「東京都小学校外国語教育研究会」、「東京都高等学校英語教育研究会」他関連機関、Global Education Network 20 指定校や、東京都立高等学校英語教育研究推進校との連携を進め、小・中・高・大学等の学びを円滑に接続できるようにすること。
- ③ 「個別最適な学び」、「協働的な学び」が共に充実し、将来の第一級の英語力に確実につながる効果的な授業等が東京都全体で展開されるように対話や協働をすること。
- ④ 生成 AI や ICT を利用しつつ、的確な指導を行うことで、英語学習の効果を高めること。発信や受信において、従来は実現が難しかった、より詳細な考えや気持ちを自らの言葉でやりとりする言語活動が可能になると考え実践研究すること。

④について例えば、ある話題について small talk を行う時、自分が話そうとして話せなかった内容を生成 AI や自動翻訳ツールで検索して、その後同じ話題で、検索した表現を使用して再度 small talk を行うことを帯活動で行ったら1年後、3年後にどのような変容が生じるのか。さらに調べた表現を各自が表現集としてまとめ、コラボレーションツールで共同編集や情報共有したらどうなるのかと想像すると楽しくなってきます。

都中英研会員各位、またご関係のあらゆる皆様におかれましては、各自のすべきこと、また実現したいこと等を互いの協力により、ゆったりとした気持ちで、堂々と達成し、組織の一員としてまた個人として充実した日々をお送りいただけたらと願っています。

最後に、持続発展する東京や日本、そして世界を支えるかけがえのない、しなやかでたくましいグローバル人材の育成のため引き続き、皆様の変わらぬお力添えを賜りますようお願い申し上げます。いつもありがとうございます。

# 各部サマワーワークショップ 報告

## 事業部

- 日時・会場： 令和7年8月1日（金）午後1時～午後4時30分 都立豊多摩高等学校
- テーマ： 「小中高大 各校種における技能統合の指導」
- 内容： 小中高大接続の実践報告と提案
- 発表者： 足立区立鹿浜未来小学校 副校長 畠山 芽含  
にしみたか学園三鷹市立第二小学校 指導教諭 今西 佑  
足立区立新田学園新田小学校 主任教諭 竹田 佐和子  
小平市立小平第八小学校 主任教諭 竹内 淑香  
練馬区立貫井中学校 主任教諭 遠藤 康子  
東京都立豊多摩高等学校 主任教諭 亀田 洋斉  
埼玉大学教育学部 准教授 奥住 桂

事業部では、昨年度から継続して「小・中・高・大実践事例集とその展望」というテーマでワークショップを開催しました(参加者で約70名)。

小学校における外国語教育については、小中連携を視野に入れた授業実践報告や学校間連携事例、校種間の接続を意識した指導と評価例等の発表いただきました。小学校の段階では、自分のことや身の回りの物の話題について取り扱い、児童の進級にあわせて、日常的な話題や社会的な話題について触れ、即興性や論理性を高められるよう、小中高大の円滑な接続が必要であることを再確認できました。

中学校においては、授業実践を紹介いただき、技能統合型の授業の構成とその具体的な評価方法について発表いただきました。生徒の実態に即した授業計画の視点は、どの校種にも生かすことができるものでした。また、生徒の成果物からは学習した言語材料を用いて実生活につなげる様子を知ることができました。

高等学校では、学習指導要領に則った、技能統合活動の実践に必要な要素について解説いただき、単元の目標達成にむけた単元指導計画、授業ワークシートを提示しながら発表いただきました。今年度も高校生によるデモンストレーションが行われ、小・中学校段階での学習が高等学校での学習に生きていることを確認できました。

大学における外国語教育については、「書く」ために真剣に「読む」というテーマで発表いただきました。オンラインツールを効果的に使用し、自治体広報ページや高等学校入試問題の模範解答の作成など、読み手を意識した英作文の授業実践の紹介で、高度な英作文を扱いつつも、他校種にも応用できる部分が多くあり、授業実践のヒントを多く得ることができました。

今後も本研修と同様のテーマで研修会を開催する予定です。また、今年度から若手教員を対象とした授業づくり研修会も実施いたしました。新しい取組に挑戦しつつ、小中高大の連携もより深め、実践をつなげてまいります。

## 調査部

- 日時・会場： 令和7年8月19日（火）10:00～16:30 東京都立桜修館中等教育学校
- 内容等
  - ・講義「『コミュニケーションテスト』のスペックから問題作成へ ～書くこと～」
  - ・テストづくりワークショップ前半：テスト問題づくり（1学期の定期テストをもとにグループごとのスペック・テストづくり）  
後半：全体発表と講師助言
- 講師：東京外国語大学 教授 工藤 洋路 先生（講義・ワークショップ助言）  
都留文科大ほか 非常勤講師 本多 敏幸 先生（ワークショップ助言）

調査部は、主にコミュニケーションテストの作成と実施、夏期ワークショップの2本立てで活動しています。

コミュニケーションテストに関しては、昨年度から、テストに参加された学校の先生方が夏休み中にライティングの答案を調査部員とともに採点をする研修会を開いています。ループリックを用い

て複数の教員で採点する作業を通じ、より一貫性があり生徒へのフィードバックにも資する採点法について、共に学ぶ機会としています。

一方、夏期ワークショップでは、先生方が作成した定期テスト問題を持ち寄り、観点に合った適切なテスト問題であるか、どうしたらより妥当性の高い問題に変えることができるかを参加者同士で検討しています。本年度は、「書くこと」の領域をテーマに選び実施しました。最初に東京外国語大学の工藤洋路教授による「書くこと」のテストについて講義を拝聴し、その後、各参加者に持参いただいた実際の定期テスト問題についてグループ別に改善案を検討しました。最終的に、各グループが検討した問題から1題を抽出し、グループで考えた改善案を全体の場で発表しました。そのひとつひとつに対し、工藤先生・本多先生から明瞭で具体的なアドバイスをいただきました。(参加者 57 名)

## 研究部

### 【第1回】

○日時・会場：7月29日(火) 10:00~16:00・杉並区立泉南中学校

○内容・発表者



① 中間指導について	小林 竜也(千代田区立九段中等教育学校)
② 気軽に試そう、Try Out 活動! ~教科書を活用して、生徒が言いたいことを Try Out させてみましょう~	小澤 美沙姫(杉並区立泉南中学校)
③ Inductive Teaching の実践と明示的指導後の取り組み	長谷川 眞司(小平市立小平第三中学校)

### 【第2回】

○日時：8月5日(火) 10:00~16:00

○会場：千代田区立九段中等教育学校

○内容・発表者



① Picture Card の活用の実践例	瀧本 廣樹(東京都立大田桜台高等学校)
② 即興で話す力を高める授業実践 ートピック型・タスク型テーマを設定した活動を通して	松野 麻里恵(港区立三田中学校) 前田 宏美(文京学院大学)
③ 特別講師 学習者エンゲージメントを促す英語授業の着眼点 和田 玲(長崎大学教育学部 助教・ウィーン大学 英米研究科教育言語学 研究員)	

本研究部では、第22回ワークショップを2回にわたり対面形式で開催した。第1回の参加者は64名、第2回は76名であり、延べ140名が参加した。各回では研究部員による実践発表が行われ、授業改善に資する具体的な知見や教材活用例が共有された。加えて、本年度は初めて外部講師として長崎大学の和田玲先生をお招きし、「学習者の思考と対話を促す動機づけ方略の応用」をテーマにご講演をいただいた。

第1回の「中間指導について」では、参加者による話し合いを中心に、中間指導の効果的な位置付け、学習者の得意層・苦手層双方を伸ばさせる活動設計、ならびに発話の正確性向上を目的とした短時間活動の工夫について、具体的事例を交えて報告した。「気軽に試そう、Try Out 活動!」では、文法事項を直接提示せず、場面設定と目的意識を重視した Try Out 活動の効果を示し、3 Questions Battle や Bomb Battle 等、小ステップによる発話量増加の手法を共有した。「Inductive Teaching の実践と明示的指導後の取り組み」では、英語文法指導および実践的英語教育を支える多様な教授法・教材・活動方法を取り上げた講義が行われた。参加者は、インダクティブティーチング(帰納的学習法)とディダクティブティーチング(演繹的指導法)の理論と実践例を通して、生徒の主体性・批判的思考・コミュニケーション能力の育成について検討するとともに、実物教材、映画、SNS、オンラインツール等のマルチメディア資源を効果的に活用する方法について議論を深めた。

第2回の「Picture Card の活用の実践例」では、イラストを用いた他己紹介やピクチャーカードの活用方法、ならびに All English で進める授業改善の工夫を紹介した。「即興で話す力を高める授業実践」では、「やり取りのステップ化」を提示し、評価発問からタスク型活動に至るまでの一連の流れや、ディスカッションとタスクの相違点を整理したうえで、条件設定や思考時間の確保が発話の質を向上させることを示した。和田玲先生の講演では、動機づけ方略(Motivational Strategies)の理論と具体的実践例が提示され、笑顔や挨拶、ジグソー活動、意外性のある導入、協働作業等を通じた学級雰囲気づくりや内発的動機づけの重要性が強調された。

2 回を通じて、理論と実践を往還しながら授業の質向上を図るための具体的手立てが多角的に共有され、発表者と参加者との双方向的な意見交換が活発に行われた。今後は、2 月に実施予定の公開授業・研究発表に向けて、実践事例の分析を行い、指導に活用できる実践集や関連データの作成を推進していく予定である。

## PT部

○日時：8月18日(月) ○会場：杉並区立阿佐ヶ谷中学校

○内容等

- ・「話すことの指導と評価の充実 small talk の実践を通して」の講演
- ・プロジェクトチーム部員の先生方からの「困っていることや疑問点」への回答

○講師：文教大学国際学部国際理解学科 教授 阿野 幸一 先生

プロジェクトチーム部では、令和7年度のテーマ『small talk の指導を通して、話すことの育成と意欲の向上』をもとに、やり取りの力を育成し、話すことの育成と意欲の向上を目指して、日常的な small talk の活動がどのような効果があるかを検証しています。

8月18日のサマワークショップで文教大学の阿野幸一先生をお招きし、『話すことの指導と評価の充実 small talk の実践を通して』の講演を実施し、69名の先生方に参加していただきました。「生徒が話すための仕掛けを用意し、支援をし、楽しんで話す授業づくり」をどのように自分の授業でしていくかを考えることができました。「元気と楽しさを与えてくれた」「教師も生徒もお互いに興味を持つことを伝え合えばいい」「生徒が楽しめることが大切」「教科書をもっと活用したい」などの感想をいただきました。

今後もプロジェクトチーム部では、『small talk(相手と会話をする活動)』の指導を継続しながら、生徒のアンケートをもとに生徒の変容を検証し、さらに深めていきたいと考えています。

## お知らせ

### ◇英語学芸大会オンライン開催 Speaking の部 参加基準の変更について

令和7年度	参考：令和6年度
A:スタンダードコースの目安 英検3級相当以下、CEFR:A1、TOEIC:320~400点、GTEC:270~689点	A:日本の中学校で英語を学習している生徒
B:アドバンスコースの目安 英検準2級相当以上、CEFR:A1~A2、TOEIC:385~550点、GTEC:680~920点	B:過去5年以内に、英語圏の国で1年以上生活したことがある生徒

※参加者はAかBを選んで応募(自己申告) 詳細は、「英語学芸大会HP」の要項をご覧ください。

### ◇東京都小学校外国語教育研究会(TEFLEA)研修会について

第4回研修会(第2回研究授業)10月17日(金)【会場】港区立お台場学園港陽小学校

【講師】文部科学省 初等中等教育局 外国語教育推進室 教科調査官 早川 優子 先生

第5回研修会(第3回研究授業)12月5日(金)【会場】小平市立小平第十一小学校

【講師】東京学芸大学 教授 粕谷 恭子 先生

中学校の先生方のご参観もお待ちしています。詳細は右の二次元コードから都小外研HPへ!



## 編集後記

都中英研だより79号をお届けします。この夏も、各部サマワークショップには多くの先生方にご参加いただきました。ぜひ、校内や地区内で情報を共有していただけたらと思います。都中英研HPでは、研修会等のご案内をはじめ様々な情報を掲載しておりますので、そちらもぜひご活用ください。

本誌に関する  
お問い合わせ先

都中英研出版部長 今本 由美子(立川市立立川第九中学校 校長)  
TEL:042-535-1415 FAX:042-534-6958